



## 男女共同参画推進課 CONTENTS

- ◆研究支援員制度について
- ◆子育て支援について
- ◆学校教育館に授乳室を設置しました
- ◆相談窓口の廃止について
- ◆女性活躍給付金審査結果
- ◆ランチタイムミーティング開催報告

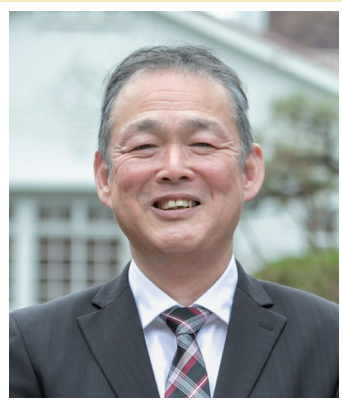
## 女性活躍総合研究所 CONTENTS

- ◆SOAR等、後期活動報告
- ◆卒業生座談会開催報告
- ◆各部門活動実施報告
- ◆英語コミュニケーションセミナー開催報告
- ◆「MUKOJO ミライ☆ラボ」活動報告
- ◆国際女性デーMUKOJOフォーラム開催報告

「第4回国際女性デー  
MUKOJOフォーラム」を  
開催しました。



## MESSAGE・・・



橋本 光能 教学局長

昨年9月の岸田内閣改造時、女性が5名入閣したことが新聞等で話題になりました。閣僚の過半数を得たのならばまだしも、全閣僚20名のうちの5名。これだけのことでニュースになること自体に微かな違和感を覚えたのは私だけではないでしょう。

このことは政治の世界に限りません。例えば、年初の東京証券取引所の大発会においても、壇上に並んだ10数名は全員がスーツ姿の男性でした。

これらは今の社会の到達点を如実に表しているように思えます。

この現実を乗り越えていくためには、女性が働きやすくなる制度上の整備はもちろんのことですが、あわせて、一人ひとりが「おかしいことをおかしい」と思える健全な批判精神を持つことが大切だと私は思います。

固定観念を捨て、目の前のことに疑問を持つ。そして「自ら考え、動く」こと。これまで外国にルーツのある生徒や障がいのある生徒と関わる中で私自身が学んできたことでもあります。

この学院で、具体的な課題に向き合いながら、学生と共にさらに学び続けていきたいと思えます。自分の属性にかかわらず、自身の能力・適性を十分に発揮できる社会となるために「おかしいことをおかしい」と思えること。その地道な積み重ねによって、「女性活躍」という表現を敢えて使わなくて済む社会の実現に少しでも寄与したいと強く思っています。

## VOICE



VOICEとは・・・働き方・子育て・介護等について、教職員の方の日頃感じていることや体験談をご紹介します。

本学に赴任し、9年目を終えようとしています。赴任当時は5歳と1歳であった2人の子もたちも14歳と10歳にまで成長し、その過程でかけがえのない様々な経験をいただいています。振り返ると、私の実家も妻の実家も遠方ということもあり、祖父母の日々のサポートは受けられない中での仕事と育児・家事はなかなか大変なことばかりです。妻も他大学で専任教員をしており、私と妻の仕事と育児・家事のスケジュールをどのように分担していくかに日々苦悩しています。

このような環境において日々の授業、研究、諸委員活動をいかに充実させるかにも頭を悩ませるなか、2年目から7年目の6年間は研究支援員制度を活用させていただき、研究支援員と共にたくさんの研究を行うことができました。大学院生時代や育児前ほどの研究スピードは出せないながらも、エンジンを止めず、平常運転で研究を行っていくことに研究支援員との協働はとても有用な時間でした。学内外の様々な方々のご支援にあらためて感謝しつつ、10年目以降もライフとワークの両輪を前に進めていきたいです。



田中 美史先生  
(健康・スポーツ科学科)

研究支援員制度は、出産・育児・介護・看護に関わる研究者や女性管理職の研究活動を支援するため、研究支援員を派遣する制度です。募集は年2回(12月下旬に次年度募集、7月下旬に後期募集)実施しています。

## 2023年度ご利用者(延べ人数)

学 科 別: 日文1、英文1、教育1、環境2、情報1、食物2、薬学1、看護2、  
 申請理由別: 育児6、介護3、女性管理職2  
 性 別: 女性11名

2022年度から、1事由につき最長5年までの利用制限や、定員を「出産・育児・介護・看護」10名、女性管理職2名と定め、できるだけ多くの研究者にご利用いただけるようにしました。

男女共同参画推進課では、可能な限り個別のご事情にお応えできるよう、引き続き制度の改善に努めています。

2024度前期の募集は終了しましたが、急なご事情で本制度を希望される場合は、男女共同参画推進課にご相談ください。

## ・利用者の声・

- ・研究支援員制度を利用することにより、研究のペースが整い、研究の進捗がスムーズになった。
- ・支援員さんのおかげで想定以上に研究を遂行することができた。
- ・支援員さんが来てくれている時間は研究に集中することができ、さらに研究に対する意欲が高まった。
- ・大学院生(修士課程)である支援員さんが徐々に力をつけていく様子も頼もしく、嬉しく思う。
- ・育休明けは、今後の自分の研究復帰について少なからず悩むものだと思うが、最も大変な時期を助けていただいたと思う。
- ・研究支援員制度があまり周知されていないと思う。週10時間という短時間であっても利用しやすい制度であることを知ってもらいたい。

## ・支援員さんの声・

- ・研究に対する姿勢や研究手法、研究の情報や論文収集、スケジュールリングなどを学ばせていただいた。
- ・大学教員として働きながら、研究を行う女性研究者の働き方を身近で学ぶことができ、将来自身がどのような研究者を志したいのか明確になった。
- ・実際にアンケート結果を入力・分析し、まとめるという経験をすることで、より深く研究の手法を学ぶことができた。



## ラビークラブ利用について

本学では、教職員と学生の皆さまに、子育てと仕事・学業の両立支援を目的とした学院内の一時預かり保育ルーム「ラビークラブ」を運営しています。満1歳～12歳(小学6年生)までのお子さまを対象に、土日祝を問わず仕事・学業がある場合に利用できます。【定員5名】

委託先の株式会社ポピンズファミリーケアは、年齢に合わせた細やかな保育が好評です。利用申込は利用日2日前(土日祝を除く)の15時までとしていますが、初めてのご利用には事前の登録手続きが必要です。詳細は、ホームページまたは男女共同参画推進課までお問い合わせください。

オープンキャンパス参加予定者も利用できますので、ラビークラブ利用の希望がありましたら、まずは男女共同参画推進課へご相談ください。



## ラビークラブ利用実績

	利用人数
2021年度	9名
2022年度	15名
2023年度	38名

2024.3.27現在



## ベビーシッター割引券利用について

◆本学は、こども家庭庁が実施する「ベビーシッター派遣事業」の助成を受けています。

対 象 者: 本学教職員(私学共済加入者)で小学3年生まで\*の保護者

\*身体障害者手帳または療育手帳の交付を受けている児童の場合は、小学6年生まで

使用条件: ①利用料金が1回につき2,200円以上のサービスを対象とします。

②割引券(2,200円)を対象児童1人につき1日(回)2枚、  
1か月に24枚まで、1年間に280枚まで使用可能。

③職場への復帰のためにサービスを利用する場合は、  
1家庭1(回)につき1枚、年度内に4枚以内、使用可能。



## ベビーシッター割引券利用実績

	利用人数	利用枚数
2021年度	3名	199枚
2022年度	6名	557枚
2023年度	4名	308枚

2024.3.27現在



11月11日に、学校教育館1階に設置型授乳室mamaro（ママロ）を設置しました。内鍵付きの完全個室で利用者のプライバシーを守ります。また、室内設備も充実しており、授乳だけでなくオムツ替えや離乳食にもご活用いただけます。他にも搾乳器などに利用できるコンセント、使用方法や育児のお役立ち情報などのコンテンツが閲覧できるサイネージが付いており、利用者が安心して快適に過ごせる空間になっています。ぜひご利用ください。



中はゆったりとしたスペースです。



本館4階  
多目的室も授乳室として  
ご利用いただけます。



学院では、令和6年度から外部委託によるハラスメント窓口が設置されることになりました。それに伴い、男女共同参画推進課でお受けしておりました「子育て・介護・働き方相談」の窓口（学外相談員・学内相談員）を、令和6年3月末をもちまして廃止することとなりました。今後も、子育て・介護・働き方についての支援は継続しておりますので、ランチタイムミーティングや各種セミナー等で情報提供いたします。各種制度の利用等については、男女共同参画推進課へお問い合わせください。



本制度は、武庫川学院創立80周年記念事業として行った「夢と虹基金」を原資とし、令和元年度に制定されました。自らの夢の実現に向かって取り組み、その文化的活動が顕著であると社会的に高く評価された本学の卒業生に「褒賞金」を、学生・生徒に「奨学金」を給付することで、幅広く優れた女性の活躍を奨励します。令和5年度の募集では、個人3件（卒業生0・在学生3）の応募がありました。慎重に審査いたしましたが、残念ながら今年度の採択者はありませんでした。ご応募いただいた皆様ありがとうございました。



申請条件は、以下の通りです。（毎年12月に募集いたします。）

**1.褒賞金**：世界又は国レベルの評価を得た卒業生の活動とし、他薦・自薦を問わない。

（原則として、日本内閣府春秋叙勲受章者・褒章受章者及び産業・文化・社会事業など各界功労者以上の活躍、若しくはそれと同等の評価を得るに相応しい活動実績が認められた卒業生）

**2.奨学金**：文化的活動

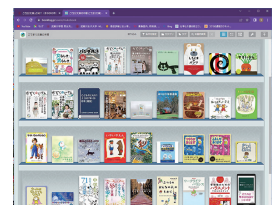
（文化芸術分野のみならずボランティア活動等も含む）若しくは学術研究活動で、世界・国レベルで評価された在学生。自薦に限る。

絵本や児童書などの書籍やおもちゃ、これまでに実施した統計学セミナーのDVDを揃えており、本学教職員・学生を対象に貸し出ししています。

ご希望の方は、男女共同参画推進課までご連絡ください。【平日9:00～17:00】



「こでまり文庫」の本棚  
<http://booklog.jp/users/mukobook>



## 「これって認知症?!」2023年10月13日開催報告



今回は介護の企画として、10月13日お昼休みにランチタイムミーティング「これって認知症?!」を開催しました。

最初に、講師の男女共同参画推進委員/専門員 金谷志子先生(看護学部)から、「物忘れ等で最近気になることがありますか?」と問いかけがあり、参加者から「人の名前を思い出せないことがある。」「ケチャップを買って帰ったら、家に2本あった。」等、ご自身のエピソードを話していただき、みなさん「あるある!」とうなずく様子が見られました。その後、認知症の方の具体的なエピソードや、物忘れと認知症は違うこと、軽度認知障害(MCI)・主観的認知機能低下(SCD)についての説明があり、参加者は、「自分のできる認知症の気づきチェックリスト」でセルフチェックも行いました。

最後に「認知症かな?」と不安や心配がある場合は、受診はかかりつけ医や物忘れ外来等へ、認知症に関する相談は地域包括支援センターへと説明がありました。

## 参加者の声

- ・わかりやすく説明してくださったので、理解しやすかった。
- ・参加者のエピソードを共有する機会があり、良かったです。
- ・軽度ならお薬が効きやすいとお聞きして安心しました。
- ・身近なエピソードから医学的知見まで色々なお話が聞いて良かったです。早めに気付いて、あれっと思ったら受診することが大事だと感じました。



## 「子育て交流会」2024年3月16日開催報告



今年度3回目のランチタイムミーティングは、子育て中の教職員を対象とした「子育て交流会」を学院内保育ルーム「ラビークラブ」にて開催しました。

当日は、育児休業中の方も含めて計4名の女性教職員(教員2名、事務職員2名)が参加。男女共同参画推進委員/専門員の中村明美先生(教育)をアドバイザーに迎え、和やかな雰囲気の中、それぞれの自己紹介からのスタートとなりました。その後は、「こんな時にラビークラブを利用しているよ。」「ベビーシッターを使ったことはある?」「第2子が生まれた時に上の子の対応で気をつけることを知りたい。」「子どもの習い事はどうしてる?」といった情報交換や、子育てあるあるの話題で大いに盛り上がりました。

また当日は、3歳のお子さんと7ヶ月の赤ちゃんも一緒に参加されました。参加者がお話したり、食事をしている間は、推進課のスタッフが見守る中、ラビークラブのおもちゃで遊んだり、パズルをしたりとご機嫌で、あっという間にお開きの時間となりました。

## 参加者の声

- ・あたたかい雰囲気様々話を聞いて良かった。
- ・次は是非、子ども同伴で参加したい。

男女共同参画推進課では、今後も「子育て交流会」「介護」などのランチタイムミーティングを継続し、教職員の皆さんの交流の輪が広がることを願っています。皆様のご参加をお待ちしています!

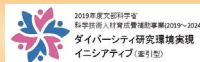




「MUKOJO未来教育プログラム SOAR」をはじめ、研究、イベント、啓発活動を行いました。



- 共通教育「SOAR 人生100年をさり拓く力」後期：受講生1年53名、2年58名、3年26名、4年13名、計150名。  
今年度は、第15回授業をリアルタイム開催で実施し、学生たちがグループに分かれてディスカッションを行いました。
- 9月20日(水)5限、キャリアセンター「わたしプロデュース!」に講座を提供。「女性のからだを知る～身体の変化を慈しみ、幸せな人生を過ごすために～」高島桂子先生(たかばたけウイメンズクリニック理事長)
- 11月11日(土)「第1回武庫女ビジネス・コンテスト」表彰式(協賛)：SOAR賞「冷蔵庫の余り物を活用しよう!『あまっちゃったん』」。アイデアをプレゼンした、伊藤美咲さん、仲森咲良さん、前田ひなたさん、金子瑞希さん、池内千尋さん、篠原梓月さんの6名のグループが受賞しました。
- ◆ 2月26日(月) 研究所紀要第2号発行：データのみでの発行です。図書館リポジトリでも閲覧可能です。
- ◆ 本年度7月1日付で発令された「学院創立85周年記念出版プロジェクト編集委員会」では、令和7年2月25日に『武庫川女子大学の教育の基盤と発展(仮称)』の発行を目指し、これまでに3回の編集委員会を開催。各学部長・学科長への原稿ご依頼の他、退職教職員との座談会実施、鳴松会報での卒業生への記念品(歴代学院長との思い出エピソード含む)募集などを行っています。



本年度の卒業生座談会は、「グローバルに活躍する先輩たちのリアルライフII」として、対面形式で行いました。

今回は昨年に引き続いて、参天製薬株式会社にご勤務され、国内外の学術企画に関与されている鈴木理央さんのほか、株式会社イシダにお勤めで、タイ・バンコクに駐在されている藤岡桃子さん、大阪市立小学校の教員でありながら、ボーイスカウト日本連盟指導者として国際的な活躍をされている田村聡子さんをお迎えしました。

いずれの先輩も国際社会で生き抜くためのとても強いグローバル思考を持たれていました。そのためかフリー討論が自然と盛り上がり、様々な体験談を通して、何事にも積極的に取り組まれる姿勢が会場にも伝わって、とてもホットな座談会となりました。

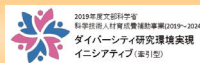
(グローバル化推進部門 吉田徹)



漫談セミナーでは、普段はなかなか聞きづらい婦人科の診察、生理痛・PMSへの対処、低用量ピル、子宮頸がんとHPVワクチンなどを、事例を交えて、わかりやすくお話いただきました。アンケートでは、生きていくうえでとても大切なことを学んだ、学生への伝え方の参考になった、男性にも聞いてもらいたいなどの感想を頂きました。

★HPV(子宮頸がんワクチン)については、キャッチアップ接種(誕生日が1997年4月2日～2007年4月1日)の機会があることをお伝えいたします。★

(生涯活躍推進部門 宇野朋子)



研究所のWEBサイト内「ロールモデルブック」では、社会で活躍する卒業生を紹介しています。今春には「MUKOJO ロールモデルブック vol.5」の小冊子を刊行します。将来に向けてどのように大学で学び、仕事を選び、今のようなワーク・ライフなのか、学生へのアドバイスも頂戴しました。今後も卒業生の活躍を定期的で紹介していきます。

(生涯活躍推進部門 竹本由美子)

「ロールモデルブック」HP▶



第8回「研究成果の社会還元促進に関する発表会」(教育研究社会連携推進室主催)後、KM館B1ロビーで、異分野交流カフェを開催しました。



今回のカフェでは、発表者の研究発表の内容をポスター形式で掲示し、お茶とお菓子をもって、雑談をしながら、分野横断のタネを探すことを試みました。短い時間でしたが、研究の詳細や今後の発展など発表会の話題も掘り下げることができ、新しい出会いの機会となりました。

(生涯活躍推進部門 宇野朋子)



2月22日(木)  
Illustrator セミナー  
谷脇幸子 講師 (武庫女OG)



Illustratorの基本的な使い方(画面構成、基本操作、パスの仕組み)について説明して頂いた後に、実際に各自がA4サイズチラシを作成する課題に取り組みました。土台を作成する→画像の挿入と切り抜き→図形の作成と編集→テキストの挿入と編集→吹き出し→画像の挿入と切り抜き、の作成手順に従って取り組みました。受講者からは「動画などで独学していたが、具体的な使い方がわかって良かった」の感想が聞かれました。

2月27日(火)  
Photoshop セミナー  
谷脇幸子 講師 (武庫女OG)



Photoshopの基本的な使い方(画面操作、基本操作)について説明して頂いた後に、実際にいくつかの課題(複数写真の合体、背景写真と人物写真の合体、文字と写真の合体など)に各自が取り組みました。最後に顔写真の加工方法を学び、シミを消す、顔を細くする、目を大きくするなどが簡単に出来ることに驚きました。イラストレーターと操作方法に共通点が多く、受講者の理解が深まったようです。

(生涯活躍推進部門 高橋千枝子)

毎年恒例となっている英語コミュニケーションセミナーですが、今年のテーマは、ズバリ、人工知能(AI) 対する処方箋でした。



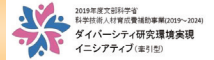
「いま何が起きている? 教育現場における機械翻訳とAIアプリの活用」と題し、この分野に詳しい神戸女学院大学文学部英文学科准教授のスーザン・E・ジョーンズ先生をお迎えました。

ジョーンズ先生は、AIアプリをどのように英語翻訳に活かしていくか、どのように教育現場で使われるべきかについて、時には例をあげながら、非常に分かりやすく解説して頂きました。特に、実際の授業の中での運用例は素晴らしく、会場からも、より良い活用方法を知ることができた、AIアプリの活用方法の選択肢や考え方が広がったなどの感想が多数寄せられました。

(グローバル化推進部門 吉田徹)



「託児支援事業サポーター養成講座」  
関西圏女子大学「第12回 異分野交流会」開催報告



●「託児支援事業サポーター養成講座」実施

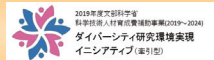
本学の卒業生を対象としたサポーター登録説明会を9月16日(土)に開催し、21名がサポーター登録しました。その後、奈良女子大学が構築したオンラインでのサポーター養成講座と、10月21日(土)に対面での救急実習「赤十字幼児安全法講習会」を受講後、保育士など有資格者8名を含む13名のサポーターが認定されました。

● 関西圏女子大学「第12回 異分野交流会」 2024年2月3日(土)

神戸松蔭女子学院大学で、本学と奈良女子大学、神戸松蔭女子学院大学が関西圏女子大学の第12回異分野交流会を2月3日(土)に共同開催しました。この取組みは、女性研究者が連携機関の研究者や技術者などと新たな分野横断的な共同研究を立ち上げることや、課題の発掘・計画提案などを支援し、研究環境の整備とダイバーシティ化を推進しています。今回は、8演題の発表があり、活発なフリートークの後、各演者が今後の異分野との共同研究に向けての成果を報告しました。(ダイバーシティ化推進部門 福尾恵介)



令和5年度女性研究者賞採択 表彰式  
2023年9月22日(金) 実施報告



「ダイバーシティ推進センター女性研究者賞」授賞式を執り行い、高橋享子所長より表彰状が授与されました。

研究支援プログラム名	支援額	研究者(代表者)	研究課題名
ダイバーシティ推進センター女性研究者賞	20万円	三浦有花 (健康・スポーツ科学部)	女性の障害物乗り越えし歩行における障害物接触の回避：先行脚と後続脚の挙上高への着目

受賞されたスポーツ科学部 三浦有花助手から今後の抱負と喜びの声が寄せられました。「ダイバーシティ推進センター女性研究者賞をいただきましたことを大変光栄に思います。受賞の名に恥じぬよう今後も周囲への感謝を忘れず研究に邁進いたします。」



「MUKOJO ミライ☆ラボ」活動報告



「MUKOJO ミライ☆ラボ」では、今年度も小学生を対象としたワークショップや中学生を対象とした出前授業を実施しました。また、3月23日(土)のオープンキャンパスでは、建築の魅力を知っていただくために、上甲子園キャンパスに中学生と保護者を招いたワークショップとキャンパス見学のイベントを実施しました。

【ワークショップ】武庫女スマイルフェス「親子で楽しむ☆わくわくワーク(レインボースティック、スライム作り)」

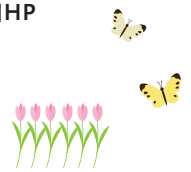
2024年2月17日(土)、18日(日)ららぽーと甲子園

【出前授業実施校】西宮市立学文中学校、上甲子園中学校、浜甲子園中学校、浜脇中学校

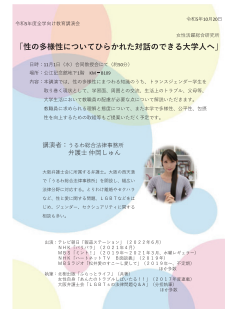
(次世代女性人材育成部門 長谷川裕紀)



「MUKOJO ミライ☆ラボ」HP



「性の多様性についてひらかれた対話のできる大学人へ」講演会(合同教授会にて)  
2023年11月1日(水) 開催報告



近年、セクシュアリティとジェンダーに対する社会的関心が高まる中、女子大学における多様性の在り方に注目が集まっています。そこで2023年11月1日に大阪弁護士会所属の仲岡しゅん弁護士(うるわ総合法律事務所)をお招きし、「性の多様性についてひらかれた対話のできる大学人へ」と題した教育講演会を実施しました。仲岡弁護士は性自認、性的指向、性表現といった基礎知識を丁寧に解説くださっただけでなく、トランス女性当事者として女子大学の多様性実現に向けた取組についても率直なお考えを共有してくださいました。学生だけでなく教職員を対象とした勉強会や研修の継続が、本学の多様性、公平性、包摂性の向上につながる事が実感できた貴重な学びの機会となりました。

(ジェンダー平等推進部門 中尾賀要子)



## 「第4回国際女性デー MUKOJO フォーラム」を開催しました

4回目となる今回、初めて兵庫県との共催開催となり、西宮市にもご後援をいただきました。

テーマは「兵庫から女性が活躍する未来」とし、対面・オンラインの同時開催で、学生、教職員はじめ、一般の方など、57名の方々にご参加いただきました。

### 【第1部】兵庫県より「ミモザ企業」認定制度についての説明

長谷玲子氏（兵庫県県民生活部男女青少年課 男女共同参画班長）

基調講演：「ミモザ企業における女性活躍に向けた取組—神戸製鋼所の事例—」

森下薫氏（株式会社神戸製鋼所 人事労政部担当部長）

兵庫県が女性活躍を促進しようと創設した「ひょうご・神戸女性活躍推進企業（ミモザ企業）認定制度」について、兵庫県の長谷様からご説明いただき、続いて、ミモザ企業に認定されている株式会社神戸製鋼所の森下様より基調講演をいただきました。神戸製鋼所のD&I（ダイバーシティ&インクルージョン）を推進するための様々な取り組みを紹介。女性活躍だけでなく、多様な人が個性や実力を発揮して企業価値を高めるためには、組織を超えたコミュニケーションの活性化が土台になる、といった内容に、参加者はメモを取りながら熱心に聴き入っていました。



長谷氏



森下氏

### 【第2部】エッセイ最終選考者スピーチ・表彰式

テーマ：「つかみたい未来 —わたし(たち)のキャリアデザイン—」

今回からエッセイ部門に加え、短歌部門、動画部門を新設し、表現方法に幅を広げて作品を募集した結果、7件の多彩な作品の応募がありました。審査で選ばれた3名がスピーチを行い、最優秀賞1名、優秀賞2名が決定しました。（敬称略、同順位は五十音順で記載）

部門	最優秀賞	優秀賞	優秀賞
大学	松山由佳 (文学部英語文化学科3年)	後藤モナ (短期大学部日本語文化学科2年)	堤祐子 (建築学部建築学科1年)

参加者からは、「ミモザ企業認定制度」取り組みへの期待や、企業でのD&I・女性活躍についての具体的な取り組み内容を聞いてとても参考になった、などの感想が寄せられました。また、「一人でも多くの学生に聞いてほしい」という、熱いご意見もいただきました。



令和5年度 文部科学省科学技術人材育成費補助事業

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)

◆ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)に本学が選定されました。

詳細は、「女性研究リーダー育成推進センター」のホームページをご覧ください。➡



学校法人武庫川学院 武庫川女子大学

〒663-8558 兵庫県西宮市池開町6-46 本館4階407号室

男女共同参画推進課

TEL:0798-45-3542

FAX:0798-45-3535

Mail:gsankaku@mukogawa-u.ac.jp



男女共同参画推進課 HP

女性活躍総合研究所

TEL:0798-45-3737

FAX:0798-45-3535

Mail:iwcareer@mukogawa-u.ac.jp



女性活躍総合研究所 HP